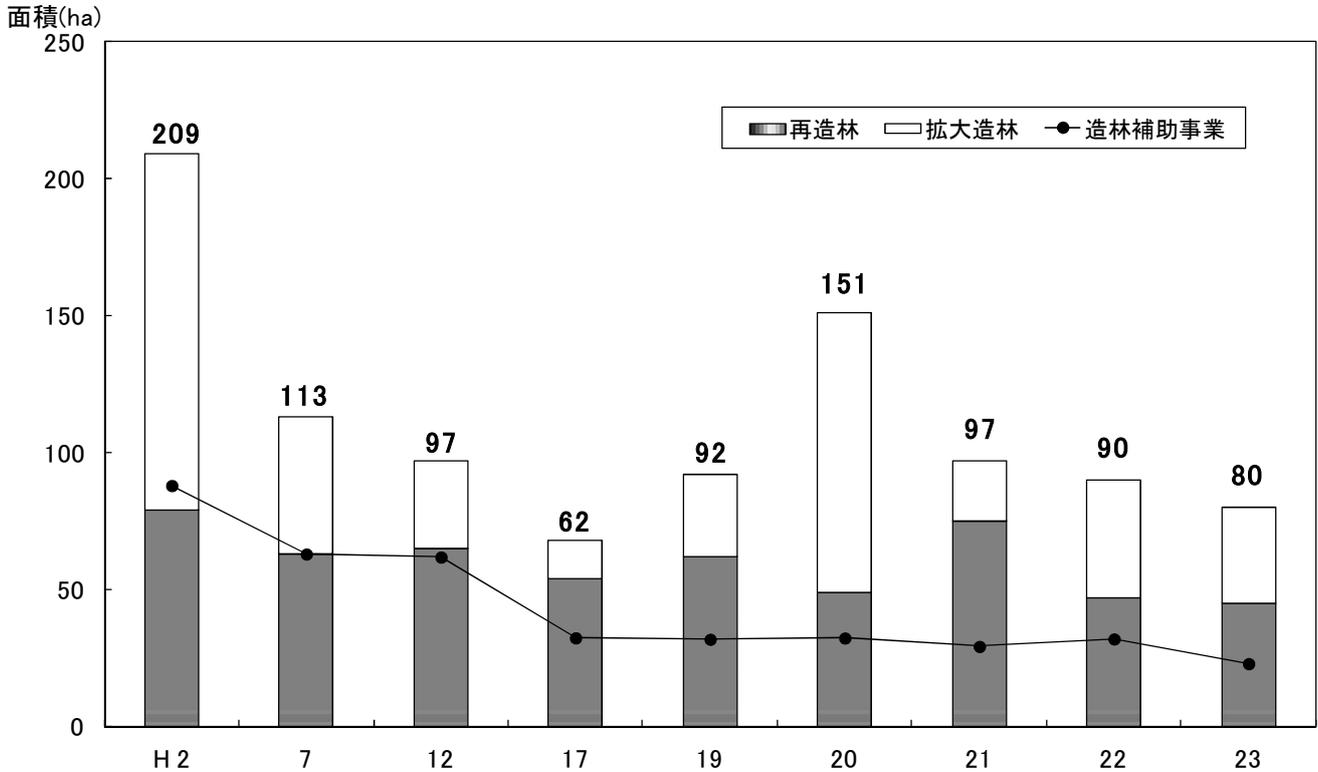


2. 森林の整備

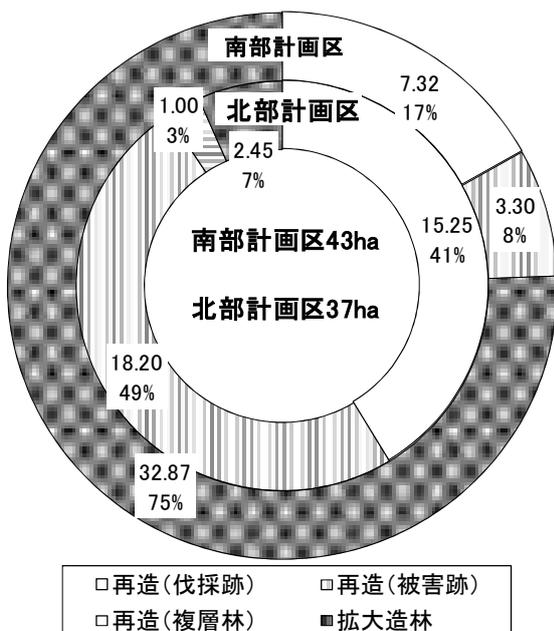
(1) 人工造林

—造林面積は減少傾向—

造林種別人工造林面積



地域別人工造林面積 (ha)



本県の造林面積は平成20年度に大きな増加を見せた後、減少の傾向にあり、23年度の造林面積は80haであった。

この内、補助造林面積は23haであり、前年度に比べ9ha減少している。なお、人工造林面積に占める補助造林面積の割合は29%となっている。

造林種別の内訳は、再造林が前年度より2ha減少し、45ha、拡大造林が8ha減少し、35haとなっている。

23年度実績を地域森林計画区別に見ると、北部計画区は前年度より7ha減の37haであり、その内訳は、再造林が34haと93%を占めている。

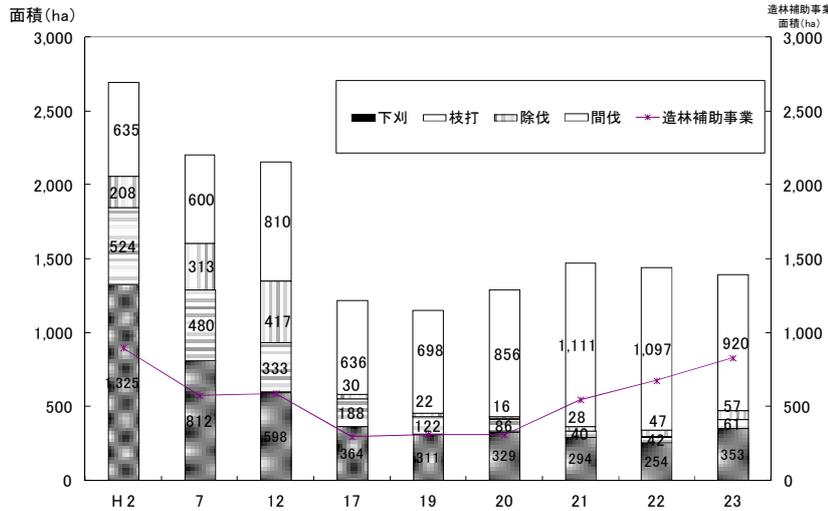
一方、南部計画区は前年度より3ha減の43haであり、内訳は、拡大造林が33haと75%を占めている。

造林樹種別の面積構成は、スギが35% (28ha)、ヒノキ11% (9ha)、マツ25% (20ha)、広葉樹29% (23ha) であり、前年度に比べヒノキの割合が減少し、広葉樹の割合が増加している。

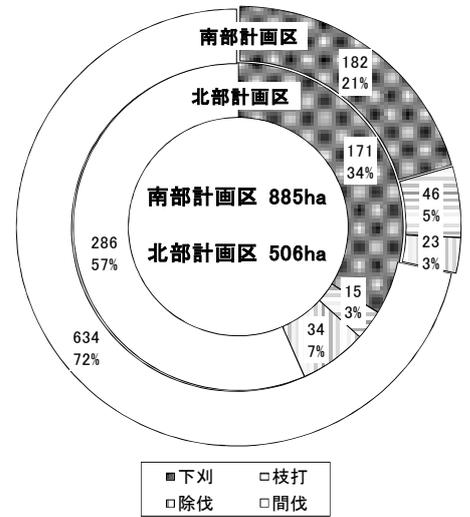
(2) 間伐・保育

—間伐・保育実施面積は減少傾向—

間伐・保育面積の推移

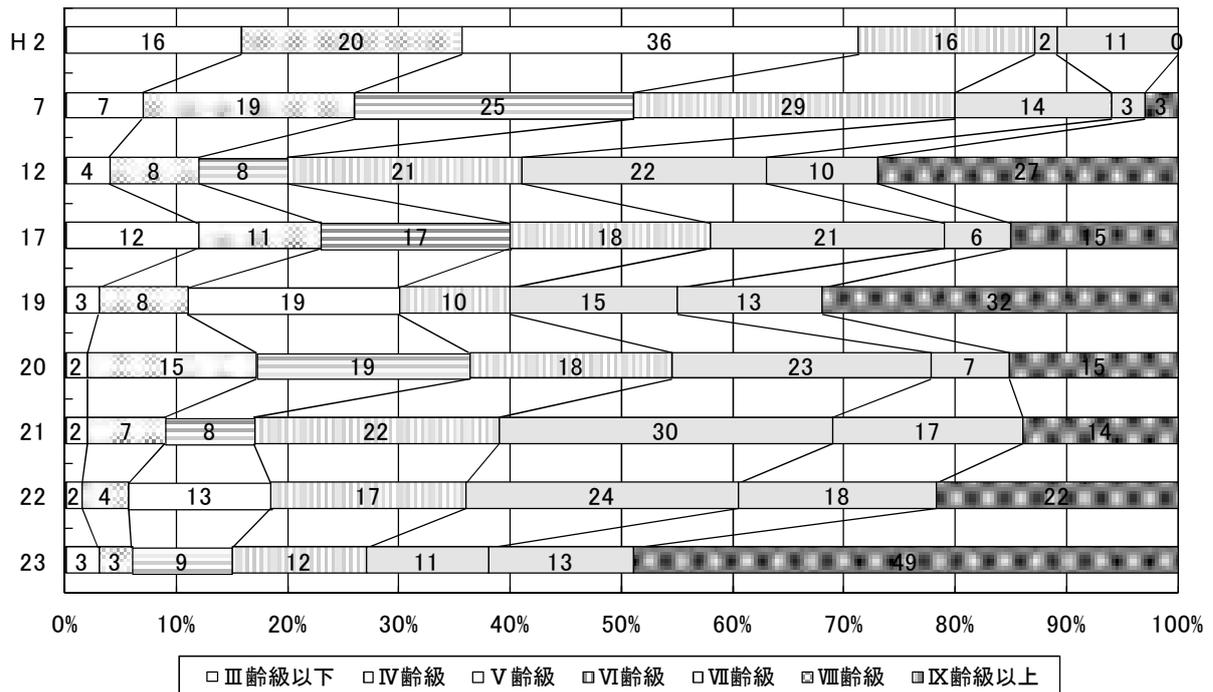


地域別間伐・保育面積 (ha)



間伐の齢級構成の推移

単位: %



本県の間伐及び保育の実施面積は、21年度に1,473haまで増加したあと減少の傾向にあり、23年度は前年度から49ha減の1,391haであった。種類別には、下刈が前年度から99ha増加し353haとなったが、除間伐が167ha減少したため、保育面積全体としても減少した。

23年度の地域別傾向としては、北部計画区では前年度から31ha増加し、506haとなった一方、南部計画区では前年度から79ha減少し、885haとなっている。種類別内訳は、北部計画区が下刈34%、間伐57%に対して、南部計画区では下刈21%、間伐72%となっている。

間伐実施面積の構成を齢級別にみると、23年度はIX齢級以上の割合が大きく増え間伐全体の49%を占めており、間伐対象木の高齢級化が進んでいることが伺える。